

令和6年度 総合型選抜

試験問題

9時00分 ——— 11時00分

地域デザイン科学部志願者（建築都市デザイン学科）

造 形 実 技

〔注意〕

1. 開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけない。
2. 解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚ある。「受験番号」は、すべての解答用紙および下書き用紙の受験番号欄に忘れずに記入すること。
3. この冊子には問題が2つある。落丁、乱丁、印刷不鮮明の箇所などがあった場合は、申し出ること。
4. 解答は、必ず解答用紙の所定の位置に記入すること。第1問は解答用紙（その1）に、第2問は解答用紙（その2）に解答すること。
5. 鉛筆および消しゴムは貸与のものを使用すること。
6. 貸与された鉛筆および消しゴムは持ち帰らないこと。

第1問

図1に示す展開図を有する立体が3体ある。3体の立体は、図2に示すように、展開図で示された面ABCDを下面として一様な平面に設置されている。一様な平面は、高さは0mであり、点線は補助線である。

3つの立体が見える様子を、下記の条件に従って解答用紙の枠内に大きく描きなさい。

条 件

- ① 図2のアの地点の高さ18mの位置から、イの地点の高さ0mを見下ろした時に見える立体の全体像を描くこと。また全体像は遠近感をつけて描くこと。ただし、補助線は描かないこと。
- ② 東南東方向から、平面と30度をなす角度の太陽光が一様に当たっているものとして、立体が作る影と、太陽光が当たらない部分の陰をつけて描くこと。
- ③ 定規、コンパスの類は用いず、黒鉛筆で描くこと。
- ④ 手元にある紙を、切ったり折ったりして立体を作らないこと。

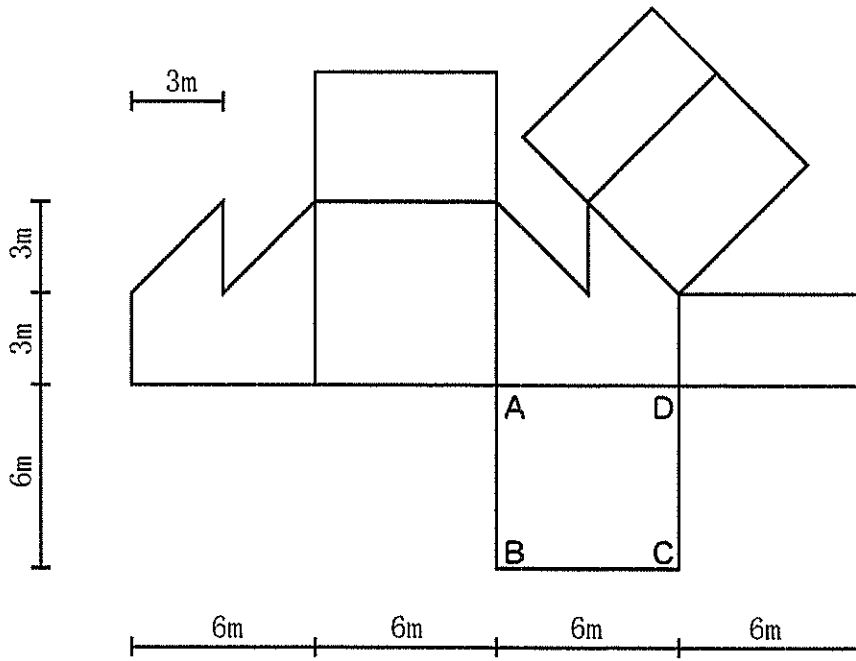


図1 立体の展開図

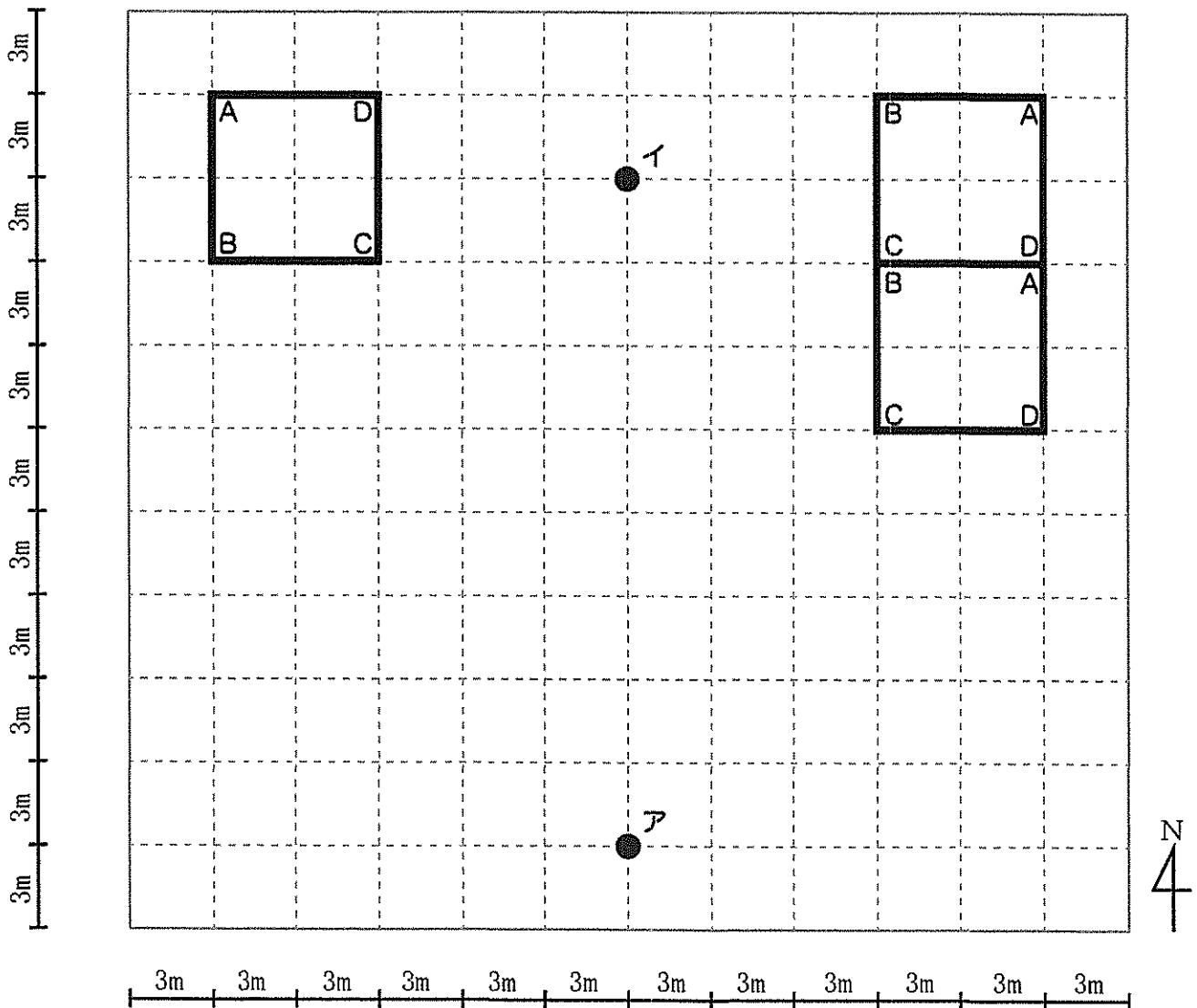


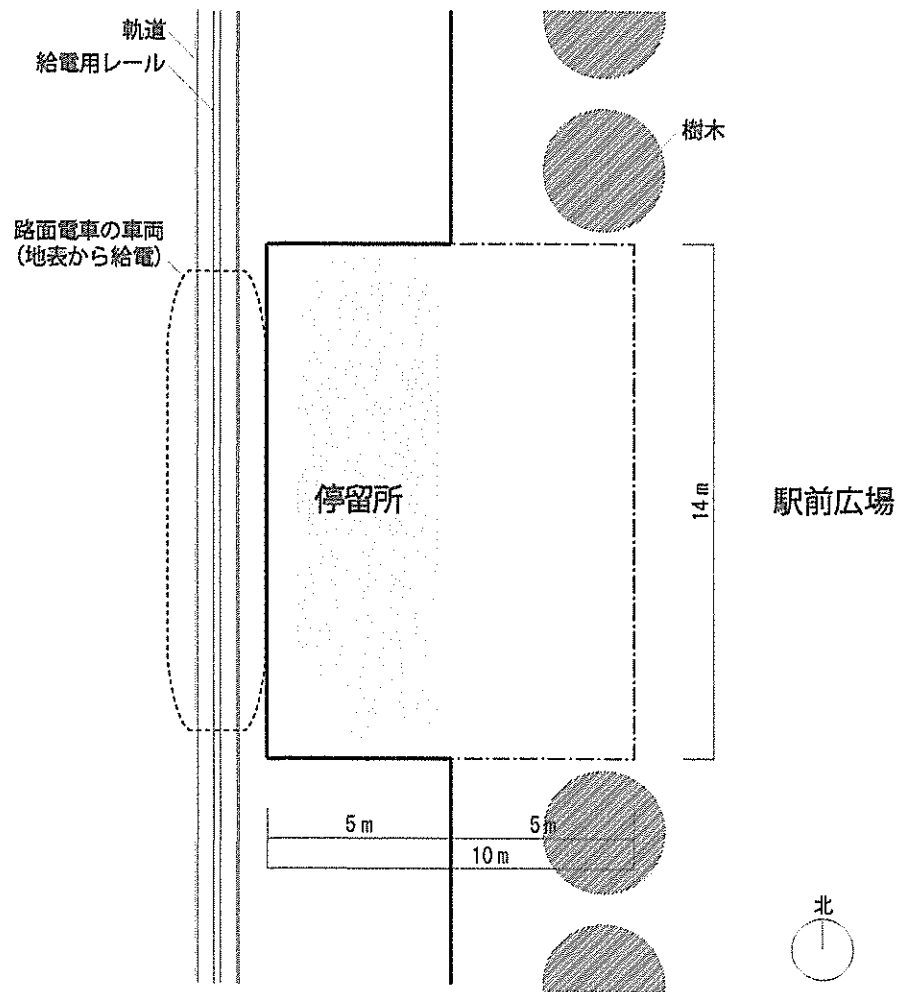
図2 立体の配置と立体を見る視点の位置

第2問

次頁の図のような、地方都市の駅前広場に面している低床の路面電車の停留所を計画している。路面電車の待ち合いスペースとともに、地域住民の交流を促進するスペースを構想し、そこに架ける「覆い」を、以下の条件に従ってデザインして、解答用紙の枠内いっぱいに描きなさい。さらに、「覆い」をデザインする際に考えたことについて、地域住民の交流の促進と関連づけてマス目内に述べなさい。

条 件

- ① 「覆い」は、屋根とそれを支える柱、梁などの部材からなるものとし、高さとかたちは自由である。地面に立つ人から見た「覆い」と停留所および駅前広場の様子を1枚の図で描くこと。なお、路面電車の車両は描かなくとも良い。
- ② 「覆い」をデザインできる平面の大きさは、駅前広場を含めた10m×14mである。
- ③ 停留所の床は、軌道が敷かれた床より35cm高く、駅前広場との間に段差はない。
- ④ 「覆い」の屋根、柱、梁などの材料は自由に考えて表現すること。さらに、停留所や駅前広場の床の材料も自由に考えて表現すること。
- ⑤ 路面電車の待ち合い、および地域住民の交流の促進に必要な家具なども構想して描くこと。
- ⑥ 停留所や駅前広場で過ごしている人を描くこと。
- ⑦ 定規、コンパスの類は用いず、黒鉛筆で描くこと。



路面電車の停留所および駅前広場を上から見た図